

発行日 令和8年8月7日

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます

パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

台風15号が本県に接近するおそれがあります。

今後の気象情報に注意し、農作物被害の発生を防止するための対策を適切に行いましょう。

- ◆人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、大雨や強風が収まるまでは行わないでください。また、大雨等が収まった後の見回りにおいても、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分に注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行ってください。
 - ◆台風通過後は、ほ場からの速やかな排水を最優先に取り組んでください。
 - ◆高温が予想されています。「農作物技術情報特別号 高温対策（令和8年7月24日）」を参照し、被害の未然防止や軽減を図るよう、高温対策を適切に行いましょう。
- ※URLはこちら→<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/technical/2012398/2012859.html>

水 稲

排水路等の点検整備と冠水後のほ場管理を万全に！

◎ 事前対策

- (1) 台風通過後は高温乾燥風（フェーン）を伴う場合があります。気温が急激に上がることがあります。登熟初期の高温や、乾燥による水ストレスは、玄米品質の低下につながります。
このため、台風通過後の高温時は湛水管理とします。
- (2) 浸水や冠水に備え、排水口・排水路を点検し、詰まりの原因となるゴミ類の除去に努めます。

◎ 事後対策

- (1) 冠水した場合は、葉が少しでも早く水面に出るよう、すみやかな排水に努めるとともに、濁水が流入したほ場では水の入れ替えを行います。
- (2) 冠水した稲は、水分を消耗しやすいため、湛水管理を行います。
- (3) 沿岸部において、高潮害（潮風害）の恐れのあるほ場では、応急的に水の入れ替え・かけ流しを行い、塩分の洗い流しを図ります。
- (4) ほ場の排水口・排水路にゴミなどが詰まった場合は、安全な立入りが可能となったことを確認した後、早めに排水設備を点検し、機能復旧に努めます。
- (5) ほ場内にある流木や瓦礫・土砂などの漂着物は、機械収穫などの作業に支障をきたすため、退水後、できるだけ速やかに取り除きます。ただし、状況によっては工事等が必要な場合があるため、無理な作業は行わず、関係機関に相談したうえで対応します。

大豆

排水対策と病害防除を十分に！

◎ 事前対策

ほ場表面の排水を効果的に行うため、周囲溝や排水口などの排水施設の点検・補修をします。

◎ 事後対策

- (1) ほ場が浸水、あるいは冠水した場合は、一刻も早く排水する必要があります。ほ場内や排水口のゴミ等を除去して、土壌表面水の速やかな排水に努めてください。
- (2) 倒伏した株は、隣接する株どうしで支えあうようにするなどにより、地面に接しないよう持ち上げておきます。また、根の健全化を図るために、ほ場表面が乾いてから畦間を浅く中耕したり、乗用管理機でうね間を走行するなどして、根圏に酸素を供給します。ほ場に入れるか確認の上、慎重に作業してください。
- (3) 台風通過後は、一般的に病害が発生しやすくなりますので、必要に応じて防除を行います。

野菜

排水対策と施設の保守点検を行い、通過後は草勢の早期回復を！

◎ 事前対策

【露地栽培】

- (1) 大雨による浸入水を防止するため、ほ場周囲に排水溝を設置します
- (2) 防風ネットを設置している場合は、ワイヤーや針金を張り直し、ネットの破損は補修します。
- (3) 強風で、支柱が倒伏する恐れがあります。畝の両端や所々で支柱を補強します。また、支柱・ネット等への茎葉の誘引状況を点検し、固定します。
- (4) 収穫可能なものはできるだけ事前に収穫をします。

【施設栽培】

- (1) 大雨による浸入水を防止するため、ハウス周囲に排水溝を設置します
- (2) 防風ネットを設置している場合は、ワイヤーや針金を張り直し、ネットの破損は補修します。
- (3) ハウスバンド（マイカー線）が切れていないか、緩んでいないかを点検するとともに、ビニールの破損があれば補修しておきます。筋交いなどの補強を実施して強風に備えます。
- (4) 収穫可能なものはできるだけ事前に収穫をします。

◎ 事後対策

【露地栽培】

(1) 排水対策等

ほ場にたまった水はただちに排水します。排水後、ほ場作業が可能になったら、①マルチ穴を広げ畝の中の水分を乾かす、②畝間の中耕を行う等の対策を実施し、土壌中に空気を送って根の伸長を促進します。

(2) 殺菌剤散布、葉面散布

台風通過後は、病害が発生しやすくなっていますので、品目ごとの防除暦等に従って殺菌剤を散布し、病害の拡大を防ぎます。

茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機で水をかけ洗い流した後、殺菌剤を散布します。

きゅうりはべと病、炭疽病、褐斑病、トマトは灰色かび病、疫病、ピーマンは斑点病、炭疽

病、キャベツは株腐病、軟腐病、レタスは腐敗病、軟腐病、ねぎはべと病、軟腐病を対象に防除を行います。

草勢が低下した場合は、必要に応じて液肥を薄い倍率で施用または葉面散布し、草勢回復を図ります。

(3) 整枝、摘葉、摘果

果菜類では、強風で主枝が損傷した場合は側枝を利用し主枝更新を行います。また、傷んだ茎葉や果実は摘除して草勢回復を図ります。

【施設栽培】

(1) 排水対策等

ハウス内に水が浸入した場合はただちに排水します。排水後、ほ場作業が可能になったら、マルチ穴を広げ畝の中の水分を乾かす等の対策を実施し、土壌中に空気を送って根の伸長を促進します。

(2) 殺菌剤散布、葉面散布

強風でハウスビニールが破損し風雨にあたった場合などは、病害が発生しやすくなっています。また、ハウスの閉め切りによっても加湿が助長されるので、換気を行い、湿度を下げます。

殺菌剤の散布は、品目ごとの防除暦等に従って行い、病害の拡大を防ぎます。ほうれんそうでは特にべと病が発生しやすくなるので防除を行います。

茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機で水をかけて洗い流した後、殺菌剤を散布します。

草勢が低下した場合は、必要に応じて液肥を薄い濃度で施用または葉面散布し、草勢回復を図ります。

(3) 整枝、摘葉、摘果

果菜類では、ハウスビニールが破損するなど強風で主枝が損傷した場合は側枝を利用し主枝更新を行います。また、傷んだ茎葉や果実は摘除して草勢回復を図ります。

花 き

排水対策と風による倒伏対策を十分に！

◎ 事前対策

(1) 収穫期を迎えているほ場では、開花状況にあわせて早めに収穫を終えます。

(2) ほ場外からの水の侵入を防止するため、用水路の点検を行い、ゴミの除去や壊れた箇所への補修を行います。また、増水によっていつも水が溢れる場所は、土のう等（肥料袋に土を入れたもので代用可能）で補強します。

(3) 水のたまりやすい場所は、速やかに排水できるよう事前に排水溝を設けておきます。併せて、排水路を点検し、上述した用水路と同様に対策を講じます。

(4) 支柱やネットの強度を点検、補強します。ぐらつく支柱は打ち直すか打ち込みし、風の影響を受けやすいほ場は支柱を増設します。ネットは適正な位置に調整し、たるみがある場合はネットの両サイドにロープを入れて補強します。

また、横木の設置、増設は、支柱・ネットの補強に有効です。

(5) パイプハウスの対策

ハウスバンド（マイカー線）が切れていないか、緩んでいないかを点検します。被覆資材の破損が拡大しないように、ビニールの小さな破れや傷の補修を行います。

また、風が強い場合、施設を閉め切ることになりますが、湿度が上昇して灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので循環扇等で空気を攪拌して予防に努めます。

◎ 事後対策

(1) 株の立て起こし、支柱・ネットの修復

強風によって株が倒伏・傾倒した場合は、時間が経過するほど茎の曲がりに戻りにくくなるので、風が弱まったら直ちに株を立て起こします。併せて、支柱・ネットを修復します。

(2) ほ場の排水

ほ場にたまった水は、速やかに排水します。特にキク類では、萎ちょう症状（水焼け）が発生しやすくなるので、長時間滞水しないよう努めます。

(3) 病害対策

ほ場の冠水や多湿、茎葉の損傷、泥の茎葉への跳ね上がりにより、病害が発生しやすくなります。品目ごとに農薬の使用基準や各地域の防除暦などに従って殺菌剤を散布します。

りんどうでは、灰色かび病や黒斑病の発生が助長されるので注意します。

薬剤散布する際は、株に付着した泥を洗い落とすため、動力噴霧機の圧力を高めにして十分量を散布します。併せて、施設栽培では換気を徹底し、施設内の湿度の低下を図ります。

(4) 被害株及び茎葉の除去

出荷不能となった株や折損した茎葉は、ほ場外に持ち出して処分します。

果 樹

防風対策、排水対策により被害の軽減を！

◎ 事前対策

【共 通】

収穫期を迎えている品種は、果実品質と散布した農薬の使用基準（収穫前日数）を確認し、収穫が可能なものは、速やかに収穫を進めます。

【りんご】

(1) 防風ネットを設置している園地では、ネットの張りを点検し、緩んでいるワイヤーは張り直し、破れているネットは張り替えるなど十分に効果が現れるよう準備します。

(2) わい性樹は強風で倒伏することがあるので、主幹を支柱に2～3ヵ所結束します。長大な側枝を持つ樹形であれば、一層、バランスを崩しやすいので、丈夫な支柱で支え、はずれないようしっかり縛り固定します。幼木も忘れずに支柱に結束します。

(3) 高接ぎ樹では大切な更新枝を保護するよう添え木をします。

(4) 降雨による表面水を速やかに排水できるよう、予め排水溝を設けておきます。

【ぶどう】

(1) 防風施設の設置、見直しを行います。（事前対策りんご（1）に同じ）

(2) 棚が倒壊しないよう、棚内部の力線に補助支柱を配し、周囲柱、隅柱を補強します。

また、雨よけハウスは、ハウスやフィルムが飛ばされないよう、ハウスバンドやフィルム留め具等の点検を行い、ビニールの破損があれば補修します。

(3) 降雨による裂果の発生や、土壌が軟弱化しアンカー等が浮き上がることを軽減するため、排水溝を切り、速やかに排水できるよう対処します。

◎ 事後対策

【りんご、ぶどう】

(1) 強風や雨により地盤が緩み、樹が斜めに傾いたり、横になった場合の立て直しは、できるだけ早く行います。ただし、そのまま不用意に引き起こすと、残っていた根も切ることがあるので、倒れた側からスコップで少し掘り下げるなど、注意深く戻します。また、すぐに起せない場合は、露出した根に土をかけるなどして乾かないようにします。

- (2) 滞水により枝に付着したごみ、果実の泥を排除します。また、果実に腐敗等が確認された場合は速やかに取り除きます。
- (3) 園地が冠水した場合や、枝葉や幹に無数の傷が生じている場合には、疫病などの果実腐敗性病害やふらん病など樹体病害の感染の恐れがあります。このような場合は、定期防除を早めるか、特別散布で殺菌剤を全面散布し、感染を予防します。また、側枝や大きい結果母枝が折れた場合には、傷口をなめらかに切り、塗布剤を塗布します。

畜 産

転作田の排水対策の徹底、停電時対応の確認を！

◎ 事前対策

【ほ場・飼料】

- (1) 滞水しやすいほ場では、溝切を行います。特に、とうもろこしは湿害に弱いので排水対策を徹底します。
- (2) ラップサイレージは、滞水しにくい、安定した場所に移動します。
- (3) 紙袋の飼料は、雨が流入しない場所に移動するか、シートで被います。
- (4) 電気柵を設置している場合は、暴風・浸水等による紛失、故障等を防ぐため、念のためパワーユニットを撤収します。

【畜舎】

- (1) 畜舎周辺を点検し、風雨で飛ばされる可能性のある遮光シート等は、補強または撤去します。
- (2) 畜舎内に雨水が入らないよう施設の点検等を行います。
- (3) 停電に備えて、発電機の準備・燃料の確保を行い、使用方法を確認しておきます。
- (4) 飲水用・洗浄用水は、貯水タンクに確保し、配管の点検を行います。

◎ 事後対策

【ほ場・飼料】

- (1) ほ場が滞水した場合は、速やかに排水に努めます。
- (2) ほ場に飛来物がある場合は、収穫作業までに撤去します。
- (3) 浸水したラップサイレージは、カビの発生などの変敗のおそれがあるので、給与を控えます。
- (4) とうもろこしが傾倒、倒伏した場合は、無理に引き起こすと折損等のおそれがあるので立ち上がり待ちます。
- (5) 傾倒したとうもろこしの収穫は、倒れた方向に対して斜め後ろから進入するなど茎葉を踏まないように、ハーベスタの速度を遅くして走行します。高刈りして土砂の混入を避けます。
- (6) 倒伏・強風などにより枯れあがりが進んだものは、切断面が粗くなりやすいので、詰込み密度を確保するため十分に踏圧します。不良発酵が懸念される場合は、ギ酸（急速に pH を低下させる）、乳酸菌製剤（乳酸発酵を促進）等の添加剤の使用を検討します。
- (7) 倒伏・折損程度が著しく、登熟がすすまない状態で収穫した場合は、給与前に、硝酸態窒素含量が高くないことを確認します。
- (8) 減収が見込まれ、粗飼料が不足する場合は、9～10月の適期にライ麦やイタリアンライグラスを播種して来春の収穫に努めます。
- (9) 電気柵は、飛来物の撤去や破損箇所の修繕を行った後に通電します。

【畜舎】

- (1) 畜舎内が浸水した場合は、排水を徹底し排泄物や汚れた敷料を除去します。牛床等は、水洗後に、消毒（消石灰や消毒剤の散布）を行います。乾いた敷料の投入、送風・換気による乾燥に努めます。
- (2) 停電になった場合は、通電後に搾乳機器の確認を行います。また、給水・給餌機等の動作も確認します。
- (3) 停電で搾乳が大幅に遅れた場合は、前搾り乳の凝固物（ブツ）の有無を確認します。乳房炎

が疑われる場合はクォーターミルカー等で搾り分けするとともに、**体調の変化**も注視し、異常時は獣医師の診察を受けます。